

2015年度 関西学院大学自己点検・評価
 <C票> 第三者評価結果 【総合政策学部】

教育研究目標 1

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 明確な理念のもとに目指すべき教育研究目標が示されています。（評価者A） ・ 具体的で、詳しく書かれています。（評価者B） ・ 学際性と専門性という難しい課題を、専門知識と総合政策分析力という2つに絞った点は、目標達成に適切かつ具体性のあるものと思われます。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 学部設立当初の理念を重視しつつ、既存のカリキュラムを見直し新カリキュラムへの改訂に取り組むことは、大変に有意義なことです。（評価者A） ・ 意欲的な取組みで、妥当です。（評価者B） ・ 客観的にみて妥当と思われます。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当です。（評価者A） ・ 評価指標が複数の要素から成っている。カリキュラム改訂という単一の指標のほうがよい。（評価者B） ・ 他の要素も影響しないか、検討しながらの改善が期待されます。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切です。（評価者A） ・ スケジュール設定はカリキュラム改訂のみが示されているが、そのスケジュールは適切です。（評価者B） ・ 検証・改善のためには、もう少し長いスパンで検証することも考えられるところです。（評価者C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 2名	左記を選択した理由： ・ 「実務的専門技術の獲得」という目標が明確に示されています。（評価者A） ・ 学生数を増やす対象が明確です。（評価者C）
「具体的でない」 1名	左記を選択した理由： ・ 「各分野における実務的専門的技術の獲得」と大学院進学者を増やすという目標との関連が不明だから。（評価者B）
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 (設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)	<評価者からのコメント> ・ 「政策」を重視した学部教育の理念に基づき、実務的専門技術の獲得の向上を目指すことは大変に意義のあることです。（評価者A） ・ 6年後のめざす姿（目標）の内容は、意欲的な取組み内容ですが、教育研究目標に掲げられた事項との関連での妥当性は不明です。（評価者B） ・ 部局の特徴を伸長させる取組であると評価されます。（評価者C）
評価指標 (目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)	<評価者からのコメント> ・ 妥当です。（評価者A） ・ 目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当です。（評価者B） ・ 数で計ることは妥当と思われます。（評価者C）
目標達成スケジュール (目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか）)	<評価者からのコメント> ・ 適切です。（評価者A） ・ 目標達成に向けたスケジュール設定は適切です。（評価者B） ・ 妥当（評価者C）

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 「語学力と的確なコミュニケーション能力の形成」という目標が明確に示されています。（評価者A） ・ 詳細かつ具体的に示されているから。（評価者B） ・ 行動計画の中味と併せて読めば、具体的と言えます。目標自体が具体的にできればよりよいと思われます。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点： ・ 実質的には英語力の向上を目指しているのので、教育研究目標3の「タイトル」の「語学力」は「英語力」と限定してよいのではないのでしょうか。（評価者B）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ すべての学生における英語を話し、聞く、書く能力の向上を目指すことは、学部の特性を活かすうえで大変に有意義な取り組みです。（評価者A） ・ 意欲的で適切な取組み内容です。（評価者B） ・ 目標は意欲的な取組であると思われます。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当です。（評価者A） ・ 設定された評価指標、評価尺度は妥当です。（評価者B） ・ 妥当（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切です。（評価者A） ・ スケジュール設定は適切です。（評価者B） ・ 即効性はないと思われ、適切。（評価者C）

教育研究目標 4

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 学部本来の理念を踏まえて現実社会における問題解決に向けた研究・教育を高めていく目標が明確に示されています。（評価者A） ・ 具体的、詳細に示されています。（評価者B） ・ フィールドワークやPBL型科目は、問題解決能力の涵養には効果的であると思われます。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点： ・ PBL関連科目がどのような科目かわかりません。学部が目指している事項を理解していない教員がいるとことですが、大きな問題です。（評価者B）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ プログラムや講演会を通して学内と学外とをつなぐことで現実社会における問題解決に向けた指向性を強めることは、学部の独自性を活かすうえで大変に有効です。（評価者A） ・ 設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、意欲的な取り組み内容で妥当です。（評価者B） ・ 部局の特長を伸長させる内容となっています。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当です。（評価者A） ・ 設定された評価指標、評価尺度は妥当です。（評価者B） ・ 妥当（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切です。（評価者A） ・ スケジュール設定は適切です。（評価者B） ・ 適切（評価者C）